

11月28日(水) 本年度第19回(通算2939回) 12時30分～ 釧路プリンスホテル
『ロータリー理解』

担当/ロータリー研修委員会

☆メーキャップ

11/7 (京都西北RC) 菊池 美恵子さん

11/10 (第4回会長幹事会) 小林 裕幸君、大友 淳君

☆出席報告【会員総数80名 免除4名 出席計算に用いた会員数80名】

本日の出席率 出席者 35名 メーキャップ 3名 本日の出席率 47.5%

前々回の出席率 出席者 40名 メーキャップ11名 本日の出席率 62.5%

☆ニコニコ献金

- ・結婚記念日のお花ありがとうございました。北川さん本日よろしく申し上げます ～小林 裕幸君
- ・本日の例会よろしく申し上げます ～大友 淳君
- ・結婚記念日です。何とか7年がんばってます ～石森 将敬君
- ・今年も無事に結婚記念日を迎えることができました。お花ありがとうございました ～川村 真一君
- ・今年の例会発表者、平井君、中島君、宮下君よろしく申し上げます ～北川 健二君

《大友幹事》



【 報 告 】

1. RI 日本事務局より 12月ロータリーレートが 1 \$ = 112円

【 回 覧 】

1. 2019年国際ロータリー年次大会の参加旅行募集案内が来ています。
2. 厚岸ロータリークラブ様より、10月会報並びに11月例会プログラムと事務所並びに例会場の変更のご案内が届いています。
3. 釧路北 RAC より、第10回例会の案内が来ています。
4. ザ・ロータリアン12月号が届いています。

【 その他 】

1. 次週12月5日の例会は「年次総会」です。多くの会員皆様の出席をおねがいます。
2. 3月27日に執り行われる「坂本新世代基金支援贈呈式」の贈呈先を募集します。
今現在、釧路音楽協会及び幣舞中学校吹奏楽部から支援の申し出が来ています。
規約規定は、釧路地域で活躍する青少年グループ及びその育成を推進する
ボランティア諸団体を対象とするとなっておりますので、宜しくお願い致します

☆《小林会長》☆



皆さんこんにちは。11月17日のIDスポーツ大会ですが、参加されました会員の皆様ありがとうございました。一つ皆さんにお話させていただきます。私の挨拶の中で「偉いね」っていう言葉を何度も使わせていただきました、この偉いねって言葉ですが、一概にはすべてに当てはまるとは思っていませんが、この言葉をかけられる事で、参加された皆さんは、心が落ち着くこと、それから自分自身に自信を持つ事が出来ると思って、使わせていただきました。私の家には23才になる長男が知的障害があり、情緒が不安定になることがあるのですが、彼の心を落ち着かせる魔法の言葉が「偉いね」・「偉い」という言葉だからです。

本年度10回目という事で当クラブの継続奉仕事業として、いい形で続けていけたらいいなと思っております。

さて、本日の例会ですが、11月14日、北川委員長に設えていただきましたKJ法を用いた、アカデミー研修塾での成果の発表となっております。

文化人類学者の川喜田二郎氏が開発した問題解決の技法で、彼のイニシャルをとってKJ法と名付けられております。混沌とした情報を秩序立て、統合することにより、新たな発想や根本的な問題を導くというものです。手順としては、さまざまなアイデアを一行見出しにしてカードに書きだす。それらのカードの関連性の深いものをグルーピングし、グループの内容を適切に表現する見出しを付ける。こうした作業を何度か繰り返して大グループを編成する。全体の構造を図解化し、最後に文章化し発表します。

私も参加させていただきましたが、参加された会員のロータリーに対する意識が非常に高く、有意義な時間を過ごさせていただきました。研修塾、当日の発表より時間が経過しておりますから、さらに良い発表が今日は聞けるのではないかと期待しております。発表者の皆様、本日はよろしく願いいたします。

ロータリー理解



こんにちは、本日の例会はアカデミー塾発表例会です。アカデミー塾の今回のテーマは当クラブの将来を見据える第一歩の会議です。各チーム6名で今後のロータリーの課題、現状の問題点の25項目の問題点について話し合いがおこなわれ、それを元に絵に描いていただきました。今回の例会では3グループから報告させていただきます。今回の発表を平井君・中島君、宮下君から発表させていただきます。各発表者は、10分内を厳守してください。

《ロータリー研修委員会》 北川委員長

1 班



平井君・石森君・山岸君

私ども第1班は、石森会員、山岸会員、本日は出席してませんが、前会員、仁木会員、伊藤会員の5名でした。木を描いて最終的に根底となる部分とか、繋がっていく部分とか最後に夢と言う形で分けて作成してみました。最後にこれにタイトルを「目指せ世界」とし私どものグループは完成致しました。木をロータリーに例えて根っこ部分が一番大事で三つのカテゴリーを根っこ部分にもってきました。それは例会の活性化であったり、仕事、会員増強が大事であるという話ができました。特に仕事が昨今職業奉仕の部分に言われてますしやはり、ロータリーに入っていることは仕事ありきだということを根っこになればロータリー活動もできないと考えおります。

ロータリー活動で忙しい時は、仕事も忙しくうまく循環している。例会の活性化についても意見が出て、先輩との交流、会員同士の交流等の素晴らしい意見ができました。人数的には、現在の80名がちょうどいいのではないかという意見が多かったのですが、釧路で一番大きなクラブにしたいということで100名を目指したいと思います。幹の部分は、夢に向かって行く中でプリンスホテルを例会場として使っているのここに置いてます。会費と先輩方への思いと学び合いということを根っこから派生して大事なことではないかと考えます。中心になる中で先輩方への思いということで、ロータリーに入らなければ出会えなかった先輩方に、常に感謝しております。若手の私たちは、本当に先輩方に感謝しているということで幹の中心に置きました。

最後に北クラブの目標、外部交流、個人目標、の三つ夢を掲げさせて頂きました。個人の目標に関しては依頼された物に関しては、しっかりと受けて行きたいと思っております。また、外部との交流については、他クラブとの合同の家庭集會が出来ないのだろうかという意見ができました。他クラブともっと交流を深めたいということですので。インターアクトをもっと増やすべきではないか。北クラブの目標として、ロータリーの友に北クラブが毎月掲載されるような事業を行い、広報活動をもっと積極的にやって行きたいですし、とにかくこの北ロータリークラブが世界に注目されるクラブにしたいと考えております。

2 班



中島君・長内君

私ども第1班は、石森会員、山岸会員、本日は出席して第2班は長内会員がリーダーになりまして、大友幹事、佐々木会員、坂入会員、田野会員、大澤会員、そして私と6名でチームを組みました。そこで最初に決まったのがチーム名で「チーム友」と決まりました。カードをまとめていったところで、次にカテゴリー分けしたところ一番下にあるのがクラブ組織について、出席について、家庭集會について、ホームページについて、例会について、アクトについて、マンネリ化についてのカテゴリー

分けが出来ました。さて次は、木の中でどのような位置づけで、どこが目標になりどこが幹なのか話し合いをした結果、根にある部分は、クラブであり組織である。会員増強をしっかりと行いながら組織を運営していきましょうということになりました。次に木の幹になる部分が、出席である。幹の上の部分にあるのが家庭集会の重要さです。家庭集会をどのように人を集めるかを熱い討論をしました。その時に、この幹を揺るがすことになるのが雑草です。これがマンネリ化ということです。いつもの例会がマンネリ化になるとモチベーションが下がり、この幹に影響を与えかねない。これは気をつけなければならない雑草である。最終的に私たちの班で、1時間に渡り話し合った結果、果実に繋がる3つがホームページ、例会、アクトという形になりました。

第1班でも話されたように広報を充実させていくべきだ。例会は合同例会であったり、集団メーキャップであったり、いい果実にしていこうという話ができました。アクトに関しては、クラブがどのようにアクトに係わっていくのが重要なことです。何点か関わり方について意見ができました。青少年育成イコールアクトではなく、アクト以外の青少年もあるのでアクトだけではなく、この地域の青少年全体を果実として育てていかなければならない。そういった形で、根から幹へ、そして果実へと繋げていこうと私どもの班は意見がまとまりました。

今回は、課題を解決するまでも行きませんでした。課題を考えられたことに有意義な時間を過ごすことができたと思います。

3班



佐渡君・宮下君

我々のチームは、小林会長、小野寺ガバナー補佐、本間会員、多田会員、私と名だたる人たちがいました。そこで私たち17項目すべてをやりました。質より量で一見ばらばらで何も見えない現象ですが、これが総合され編集したら違うものに見えて参りました。我々のチームは木にならず、街になりました。たとえば他のクラブとの交流、集団メーキャップ、会員の情熱あふれる活動、会員拡大事業、などは桜ヶ丘にしました。食の方ですが、例会食は満足でプリンスさんの食事には満足ですが、中途半端な意見もありましたので北斗にしました。世代交流を深める、人との出会いがあるということで末広町にしました。年会費や価格とのバランスが悪い、明確な比率を作る、これはお金が動きますので釧路町にしました。言われたらやる、これは若い方にも見習って頂きたいので、発展して家もどんどん建っているので文苑にしました。愛国を例会としました。これは作り手の熱意が感じられるからです。美原は、会員増強で数を入れてます。美原は、家の数だけ多いところ。以上で楽しかったです。



足立PDG

今回の掲示法によるアカデミー塾は北川さんの発案ですが、クラブとしては初めてのアカデミー塾です。このやり方は、いろんな問題点、将来像などを皆さまからあげて頂き、そこから導き出されるこれからの自分たにが、どの様に行動していったらいいのかという問題に対して答えを出す事が一番大切なことであります。ロータリーの木の根底となるのは、クラブ奉仕と親睦です。それが花開くのが財団の奉仕活動であり、国際奉仕であり、新世代あり社会奉仕であります。しかし根っこが有り、花を咲かせるには、幹がしっかりしていなければなりません。この幹が何かというと職業奉仕です。しかし現在は職業奉仕だけを別に考えるということがなくなりました。皆様方北クラブは量だと言いますけど、100名が最適な量でしょうか、200名が最適な量でしょうか、東京RCは、350名いますが、ほとんど実質的な奉仕活動は行わないが、すばらしい実績を残しています。シカゴクラブは600名近くいますが、その数というのは、そのクラブごとの考えであります。たとえば東RCクラブは、ステータス、要するにメンズクラブですので、入りたくても入れない。一流の企業の社長以外は、推薦されません。こういうクラブもひとつのロータリークラブであります。

また、奉仕活動を国際的にやっているところもひとつのロータリーであります。そう考えると、北クラブの幹となるものはたして、为什么呢。幹がしっかりしていないと花が咲かないわけですから、ここを皆さま方で十分に考えて頂きたい。この幹に対しての答えは、3月2日のIMで小野寺さんが、ご自分の思いとそして司会をしながらパストアシスタントガバナーを集めて話し合いをして、そこでそれぞれ出していくのではないかと思います。

北クラブも60年がたち、昔からうちのクラブが得意としている奉仕活動がなんなのか、そして何を基準として私たちがこのクラブに残って活動しているのかということ、今改めてもう一回勉強しなおすということが大事だと思います。変遷していく、変革していく国際ロータリーこれに私たちはどこまでついて行って、どこで拒否をするのかと。数だけ増やして、寄付だけ増やしてこれはもう際限が有りません。国際ロータリーの要求は、これにどこをもってNOを突き付けて、うちのクラブはこの奉仕活動が得意なものなのだからいうことをしっかりと考えて、進んで行って欲しいと思います。

今週のスナップ

